

君津市ならではのビジネス支援サービスで活気ある未来をつくる

小野寺 理加

君津市立中央図書館

1. はじめに

君津市では、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を維持していくためさまざまな施策に取り組んでいる。そのひとつとして、図書館が市民の課題解決を支援する「知の拠点」としての機能を充実させることが挙げられているが、図書館では「市民の知の拠点」とするにはどうすればよいのか、本市が目指している持続可能な未来のために何ができるのかを模索し試行錯誤している。ビジネスライブラリアン講習会のワークショップで所属した1班では、班員の共通認識が「自分のまちには何もなくて言うけどそんなことはない。知られていないお宝をもっと知れば、みんなもっと自分のまちを好きになる。そこにビジネスチャンスはあるはずだ。そして図書館がそのお手伝いをしたい。」ということだった。昔ながらの商店が「後継者がいない」という理由で廃業するというニュースで耳にすることがある。本市でも小売業の事業所数は20年で4割減っている*1。「後継者がいない」理由には、子が事業継承しないというだけでなく、親が子を思い継がせないという事例もある。もし、将来性が見え、ビジネスとして成り立つと未来に希望が持てるならば、また継承に関心がある子世代に可能性や方法を示すことができれば、また今ある事業を誰かが継いで存続するならば、地域の活性化を創出することも可能ではないかと思われる。そこで本稿では、ビジネスライブラリアン講習会で学んだことをもとに、事業の継承と将来の後継者となる世代である中学生への働きかけと、地域外で就業している市民に地域の魅力の再発見から地域へビジネスの可能性を考える機会の提案に的をしぼり、総合戦略²で市の目指す「希望に満ちた君津の未来」の実現に効果的なビジネス支援サービスを考察したい。

2. 君津市の概要

2-1 君津市の状況と課題

千葉県君津市は、房総半島のほぼ中央に位置し、面積はおよそ319平方キロメートルと広大で北西部は東京湾に面し、内陸部は台地、山林が広がっている。現在の人口は82,903人、世帯数は39,183世帯である(2021年2月時点)*3。

1960年代に製鉄所(日本製鉄株式会社)の操業とともに、人口が増え、農業・漁業・林業を中心としたのどかな町から、急激な都市化が進み、昭和46(1971)年に市制が施行された。令和3(2021)年9月に市制施行50周年を迎えるが、人口は1995年をピークに減少を続けている。人口の推移は、生産年齢人口(15~64歳)、年少人口(0~15歳)が

減少するなか、老年人口（65歳以上）は増加している。そのため将来的には少子高齢化の進行により、全体の人口が縮小されると予想されている。特徴的なのは、子育て世代の転出超過が顕著でありその多くは近隣市に転出していることである。また鉄鋼業の就業者が多く、10代において県外からの転入者が多いが、一方で市外への通勤者が17,311人、市外への通学者は2,285人*4となっている。君津市の16～18歳の人口が1,607人であるのを考えると、大多数の市民が中学校卒業後、市外へ通学していると予想される。以上のことから、市の魅力をアピールし市内での就業や定住を将来の選択肢とする市民を増やすには、市内に通学する中学生への働きかけが効果的であると考えられる。

2-2 君津市立中央図書館の概要

a) 中央図書館の現状と課題

君津市の社会教育は、公民館を中心に展開され、図書館については移動図書館や図書室等でサービスは行われていたものの、2002年に君津市立中央図書館が開館されるまで未設置であった。現在利用の9割を占める中央図書館、市内公共施設に併設された6分室、移動図書館においてサービスを行っている。中央図書館の入館者数は貸し出し利用者数の約2倍となっており、長時間滞在することを目的とした利用者が多い。世代別の利用者数は30代、40代が一番多いが、各世代別の人口に対する利用者の比率では児童、高齢者が高く、30代から50代は低い。中学生以上となると貸し出しでの利用は減少するが、自習や課題のための利用は多く、成人式や高校生を対象としたアンケート結果*5では「君津市の自慢できる場所」という質問に対する回答の上位に図書館があげられるなど、10代の図書館に対するイメージはかなり良い。それでも、2007年をピークに図書館利用は減少傾向にあり、2018年にはピークの約半分に落ち込んだ。さらに2019年の台風15号、2020年からの新型コロナウイルス感染対策のための臨時休館及び滞在時間短縮の協力要請など、滞在型の図書館として市民に利用されてきた中央図書館は、滞在することができない状態となっている。このため非来館型サービスの充実、30代から50代の未利用者への働きかけが大きな課題となっている。

b) 君津市のビジネスサービスの現状と課題

君津市でこれまでに行っているビジネス支援サービスは下記のとおりである。

(1) ビジネス支援コーナー

起業・創業・ビジネススキル・マーケティング・資格情報などの資料を幅広く収集したコーナーの設置。

(2) 「学校選び・仕事選び」コーナー

ティーンズコーナー内に学校案内、職種研究、就活に役立つ資料を集めたコーナー

を設置

(3) オンラインデータベースの導入。

「D1-Law.com」「日経テレコン 21」「ルーラル電子図書館」「官報情報検索サービス」「ヨミダス歴史館」を契約。国会図書館デジタル送信サービス館の登録。

その他、ビジネス支援講座（データベース活用講座）、ビジネスをテーマにしたコーナー展示(随時)、市内のビジネス講座やセミナーのチラシ配布(随時)、パスファインダーの作成（現在は1種類）を行っている。

これまではビジネス関連資料の収集や環境整備など、ビジネス支援を行ううえでの土台作りを主として行ってきた。現在、ビジネス関連の資料の貸し出しやリクエストはあるが、ビジネスレファレンスの件数やオンラインデータベースの利用は少ない。需要がないわけではなく必要とされる市民への周知が不十分であると感じており、活用されるための具体的な方法を実施することが課題となっている。

3. 持続可能な未来のために図書館ができること

10年前に行った市民の意識調査では、約8割が君津市に住み続けたいと回答しながらも、2割は「わからない」「転出したい」と答えている。その理由として「生活が不便」に次いで「都市に魅力を感じない」をあげている*6。しかし令和2年（2020）年の総合計画策定のための各種アンケートの結果では君津市に愛着がある人は約8割、住み続けたい人は約7割となっている。そのうえ高校生のアンケートでは「君津市を好き」と回答したのは約4割である*7。「自分の育ったところだから愛着はあるけど選択はできない」という人、知らないままに将来は市外で過ごそうと考える人に働きかけることが急務である。将来の担い手である中学生への効果的な働きかけ、「希望がない」と感じ市外へ就業している市民をターゲットに、「自分の仕事や地域に未来の可能性を感じさせる」ことを目的とし、以下の事業を提案したい。

3-1 中学校のキャリア教育との連携したビジネス支援

中学校卒業後、多くの生徒が市外へ通学する君津市にとって、中学校のキャリア教育との連携し、将来の就業の選択肢に地元を選ぶ布石を打ちたい。具体策としては、

a) 職種調査への協力

中学校ではキャリア教育として「興味をもった職業を調べる」「身近な大人から仕事の話をきく」などのプログラムを行い、互いに発表や掲示をして世の中にはたくさんの種類の仕事があると学んでいる。現在、図書館では学校から「いろいろな職業について調べるのに参考となる本」などの依頼を受けると、30冊程度の関連する蔵書を団体貸

し出しで資料提供をしている。

中学生へのビジネス支援として提案するのは、司書が関連資料を持参して中学校へ出かけ、レファレンスサービスを実施することである。なりたい職業が決まっている生徒にはその職業や関連する仕事がモデルとなっている小説や漫画なども紹介することができる。また、将来なりたい職業がまだわからない生徒には、地元で好きな店などからその生徒が興味を持ちそうな職業の資料を提供することが可能となる。

さらに感染症対策等のため、校外学習や外部講師を招くことができない学校へは、地元の特産や職業を盛り込んだ「はたらく」をテーマとした司書によるブックトークを行い、より広くよりたくさんの選択肢を生徒に紹介する。

b) 君津市の産業について説明

小学3年生で自分の住む市について学習した後、児童生徒が市について知る機会はいらないように思える。君津市では生涯学習推進事業として、市の職員が直接市の事業や施策などを紹介する「まちづくりふれあい講座」*8を行っている。農政課、経済振興課、企画課では「君津市の農業」「きみつの観光情報」「第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略について」をふれあい講座としてメニューにあげている。この事業と連携した授業による市の産業や未来の展望について知る機会や、特定創業支援事業*9で創業した事業者が君津で創業した決め手なども話してもらう機会を提案する。

c) 発表の場の提供

図書館の展示スペースにて、a)、b)で中学生が授業等で作成した個人のワークシートや感想、グループ等でまとめた資料の掲示する場を提供し、関連資料を展示する。

中学校は地域や職業についての学習をより深いものとすることができ、図書館は郷土の資料の充実、レファレンスサービスの体験してもらうことができる。さらに発表の場を提供することにより、家族も来館し、掲示内容等から中学生の親世代である30～40代へも市の制度や市内で創業した店舗、図書館のビジネス支援を知るきっかけになるのではないかと考える。

3-2 地元の魅力を軸にした事業承継をクローズアップしたビジネス支援事業

本市の魅力のひとつとして、豊かな自然とおいしい水に恵まれていることがある。いちご、野菜、花、タケノコ、柿、自然薯など四季折々の農産物やおいしい水からできる地酒がある。他の場所ではなく本市にしたいと希望するために、この豊かな自然とおいしい水の活用をとりあげたい。本市の魅力をターゲットが再認識することからビジネスチャンスとなること、事業者の発信が消費者である市民へも魅力の再認識のきっかけとなること、希少性を打ち出すことにより従来の事業が発展する可能性があること、希望するもの同士をお互いに見つけ出すことがハードルとなる地元の農産物、地酒を生産する業者と事業を興したいと

希望する人のマッチングを支援できることから、地元の特産物を軸にした事業承継に注目したい。

一方で図書館の強みとして、作物の栽培方法、加工のアイデア、起業のために必要な実用書、法律関係書、HP や SNS を利用した宣伝方法、看板やチラシのデザインの参考となる資料など多種多様な情報へとつなげられることがある。そのなかで「明確な意志やビジネスプランはないがあいまいな希望ならある」「ちょっと興味をもっただけ」という市民に対しても、専門機関より心理的ハードルが低い図書館だからこそできる自分で調べることや、自分だけでは難しいから専門家へつなげることでできるビジネス支援事業を提案したい。

具体策としては

- a) 産業支援センターと連携した相談会
- b) 事業継承、事業承継をテーマとした資料の収集、展示
- c) 君津市商工会議所と連携した事業継承、事業承継、事業拡大、創業とさまざまな選択をした経営者との交流会

を市の担当課、商工会議所、産業支援センターと連携し、図書館にて開催する。

地域の特産物や事業承継をクローズアップすることで、かえって広い対象に興味を抱かせ、地域外で就業している人に地域でのビジネスの可能性を考える機会の提案が期待できるのではないかと考える。また事業継承、事業拡大、創業というさまざまな選択の情報提供、専門家に相談できる場を企画することにより行動へとつなげるビジネス支援ができるのではないかと考える。

さらに中学生と地域の特産物に的を絞った事業承継という関係がないように思える2つの具体策は、同時に図書館が行うビジネス支援として実施することで、中学生へのキャリア教育をきっかけにその親世代へ地域の特産物や事業承継の可能性へと結びつく相乗効果を期待したい。

4.さいごに

「なぜ図書館がビジネス支援？」という疑問どころか図書館がビジネス支援をしていることもまだまだ知られていません。活気あふれ持続するため、必要な市民に情報とサービスを届け希望の未来があるまちづくりに図書館が寄与できるよう、図書館の力を先進事例をヒントに地域のニーズにあわせ、今、やらなければいけないと思いました。

私はこの講習会に図書館でビジネス支援サービスをやる必要性を説明できるようになりたいと思い参加しました。オンデマンドやオンライン講義で、今まで自分が説明できず、もやもやと思っていたのはこのことなんだという数々の発見や自分の知識は20年前の考え方だったと反省したり、新しい知識も学んだことはとても刺激的で楽しかったです。講師の先生方、貴重な機会をありがとうございました。またワークショップでともに企画を練り上

げた1班の方々、アドバイザーの小廣さん、事務局の方々に心から感謝いたします。

- *1 経済産業省「商業統計調査」、総務省「経済センサス-活動調査」
- *2 『第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略』 令和2（2020）年3月 君津市
- *3 月別人口推移 令和3年2月、君津市地区別年齢別人口統計表
君津市役所 HP <https://www.city.kimitsu.lg.jp/soshiki/13/35126.html>
- *4 2015年国勢調査
- *5 『館報八重原』No.117 2020.2
- *6 『まちづくりに関する市民意識調査 調査結果報告書』平成23（2011）年 君津市
- *7 タウンミーティング（令和3（2021）年3月26日から4月4日実施）配布資料
- *8 まちづくりふれあい講座 <https://www.city.kimitsu.lg.jp/site/kyoiku/8160.html>
- *9 創業支援事業計画に掲げる事業の中で、原則4回以上の指導、1ヶ月以上の期間をかけて指導する、君津商工会議所が実施する「経営・財務・人材育成・販路開拓」の4つの知識を習得できる創業セミナー及び千葉県信用保証協会が実施する創業スクールを指す。

参考資料等

- 2020BL講習会ワークショップ1班企画提案書「往古来今～中学生の「聞き書き」×デジタルアーカイブ 紫波の魅力発見」
- 2020BL講習会ワークショップ企画提案書「舞鶴版14歳のハローワーク～中学生へのビジネス支援～」岡山理恵
- 『地方起業の教科書』中川直洋著 2020 あさ出版